

# ヒナ3羽の巣立ちを確認

29.6.14

6月11日、長岡市トキ分散飼育センターでは、今シーズン生まれたヒナ3羽の巣立ちが確認されました。

巣立ちを迎えたヒナの顔は黄色で、外側の羽は灰色・内側は黄色です。大人（成鳥）になるにつれて顔は赤くなり、外側の羽は白色、内側は美しい「トキ色」へと変化します。しばらくは、親鳥にエサをねだったりしますが、徐々にエサの取り方や飛び方などを覚えていきます。【右側の写真:親鳥(写真奥)の羽の色は繁殖期に見られる<sup>すりつけ</sup>摺り付け行動により黒くなっています。】



## 【トピックス】

### 謎の笹団子を発見...？

駐車場から学習館へ向かう階段に「笹団子」らしきものを発見？ 全長約16cm、直径約2cm、葉を丸めた部分だけでも長さは8cmほどあります。一体、いつ、どこで、だれが、何の目的で作ったのかは不明です。

ちなみに、葉を加工・産卵する代表として、オトシブミが広葉樹の葉を直径1～2.5cmくらいの筒状に作ることは知っていましたが、これは6枚の葉（葉柄が6本見える）を、しっかりと巻いてある様子から、大きな生物（昆虫？）で力持ちが作ったのではないかと考えられます。さらに、周辺を観察すると、施設内のイタヤカエデの木に、他に6個発見することができました。

長岡市トキ分散飼育センターの獣医師に確認したところ、イタヤハマキチョッキリではないかということでした。



【イタヤカエデにぶら下がっている<sup>ようらん</sup>揺籃】



【<sup>ようらん</sup>揺籃を割った所】



【中の幼虫の大きさ】



インターネットで調べたところ、イタヤハマキチヨッキリの大きさはオスが4～7mm、メスが4～6mm位で、カエデ類の葉を巻き中に卵を産み、幼虫は其中で葉を食べて育つそうです。

オトシブミとイタヤハマ

キチヨッキリの体形は、ほぼ同じ大きさであることが分かりました。<sup>ようらん</sup>揺籃の大きさや<sup>ちみつ</sup>緻密さなどから、相当の力で葉を折り重ね（葉5～6枚）て作られていることがおどろきです。

【イロハモミジにぶら下がっている<sup>ようらん</sup>揺籃】



インターネットでは、カエデ類に作るとあったので、学習館の周囲の他の木はどうか観察したところ、イロハモミジでも5個発見できました。

イタヤカエデで作られたものとは葉の大きさが違うので、こちらはやや小ぶりですが、その<sup>せいこう</sup>精巧な作りは全く同じです。これからも観察を続けていきたいと思います。

（解説員：鈴木）

※揺籃（ようらん）：昆虫のゾウムシ（オトシブミやチヨッキリ）などによってつくられる卵のゆりかごのことを言う。